

山口トマト農場の概要



概要

一代表

山口 卓(48歳)

→労働力

本人・妻・福祉作業所へ作業委託(2人)

┢農地面積

17a (ビニールハウス8a)

●生産品目

中玉トマト・ミニトマト

➡栽培方法

ヤシガラ養液栽培による長期多段取り

▶販売時期

10月から6月まで

●生産量

13 t (約4万パック) 【2018年度実績】



生産したトマトの80%以上を農場前で販売







JA直売所、レストラン、福祉作業所、仲卸業者 にも販売







JA直売所

レストラン

仲間の農家と共にファーマーズマーケット の開催





【自己紹介】

渡邉 幸浩 わたなべ ゆきひろ (45歳)

主な経歴

平成15年 就農

平成18年 認定農業者

平成23年 京都府青年農業士

平成26年 京都府指導農業士

平成29年 京都市農協青壮年部副部長

京都府農協青壮年部組織協議会委員

平成30年 京都市農協理事

京都市農協青壮年部部長

【販売方法】「振り売り(ふりうり)」



近世までの日本で盛んに行われていた商業の一形態。ざるなど前後に取り付けた天秤棒を振り担いで商品を売り歩く様からこう呼ばれ、その後は大八車(リヤカー)を使用。

【販売方法】様々な販路を独自で開拓





農福連携の取り組み

- ■就労継続支援B型の事業所へ作業委託
- ▶主な作業は、収穫、下葉欠き、脇芽取り、掃除
- ▶ 福祉作業所とは2カ月に一回、作業の状況、健康面等の意見交換
- ▶作業工賃は福祉作業所と相談の上、決定

作業風景





取り組んでみて

- ▶作業の能力については個人差が大きい。
- ▶得意な作業と不得意な作業があり、できるようになるまで 時間を要する。
- ▶体調不良によるお休みがある。

それでも障がいのある方を採用する理由

- ▶ 個人差については健常者のパートさんでもあること。
- ▶ 最低賃金が1000円を超えて今後も上昇しそうな状態。

でも一番の理由は

彼らに"働く意欲"があるから。

まだまだ課題はありますが、今後も栽培面積を拡大する予定 ですので、障がい者雇用に向けて取り組んでいきます。 ご清聴ありがとうございました。